

佳作

1本の矢に願いを込めて

山形県米沢市立第二中学校

1年 中村 真緒

「パンッ。」迷いもなく一直線に的に吸い込まれる1本の矢。しんと静まり返る道場。私はこの瞬間がたまらなく大好きです。

友達に誘われて始めた弓道。何も分からないまま入団した4年生の春。最初は基本動作を覚えるので精いっぱいでした。入団してから約半年間は弓を持つことはできません。基本動作の繰り返しと、紐やゴム弓での練習が続きました。

弓道の基本は射法八節からなり、足踏み、胴造り、弓構え、打起し、引き分け、会、離れ、残心の八つの動作で構成されています。道場に入り、的に正面にして構え、矢を離れた後まですべて一連の大切な動きです。どれかが欠けると弓道は成り立ちません。何度も練習を繰り返し動作を身につけていきました。

半年がたち、とうとう的に前で弓を引くことができました。先生の補助があり、自分の力だけで弓を引いたわけではないけれど、とてもうれしかったです。この瞬間は今でも忘れられません。

同じ年の春、私にとって初めての大会、新人戦がありました。12射2中で結果は2位でした。緊張して足がガクガクと震え頭の中は真っ白、当時のことはよく思い出せません。そんな中でも結果を残せて良かったです。その一方で先輩方は、的に前に立っても落ち着き、集中して弓を引いているように見えました。さらに、私の倍以上的中していました。その姿が格好良くて、私もあんなふうに弓を引いてみたいと思うきっかけとなりました。

少しでも先輩方に近づこうと練習を続けていましたが、なかなか的中率が上がりません。むしろ下がっていくばかりです。目標からどんどん遠ざかっていく自分が情けなくて、悲しくなりました。このままでは嫌だ、悲しいままではいたくない、毎週休まず練習に参加しました。先輩方や仲間の射形を見て自分の改善点を探したり、先生に指摘された部分を修正したりして、人一倍努力しました。

そして迎えた春の大会。新人の部ではなく小学生の部として出場した初めての大会です。8射3中で、結果は3位でした。去年よりも引いている本数は少ないものの、たくさんの的に中することができました。的に矢が当たる時は不思議と周りの音が聞こえず、自分だけの世界にいるようで、矢が的に吸い込まれていくような感覚になります。弓道を始めて2年目のこの大会では、この不思議な感覚と練習した成果が出たという喜びが一日中消えませんでした。

その年には「市大会スポ少の部優勝」や、「県大会小学生の部優勝」など、さまざまな大会で結果を出し入賞することができました。憧れだった先輩方に近づけたような気がして、少し自信が湧いてきました。

あっという間に弓道を始めて3年がたち、中学生になりました。中学生は県大会で1位を取ると、全国大会への出場が認められます。全国大会を目標とし、的中率を上げるだけではなく動作一つ一つを磨き上げることも意識して練習をしていたところ、課題と修正点が多く見つかりました。早く克服したくて何度も的の前に立つのですが、改善点は理解しているのに思うように修正できず、悔しくて歯がゆい思いが続きました。

とうとうやってきた、県大会の日。12射4中で、団体の部では1位を取ることができず惜しくも結果は2位でした。仲間と夢に見た全国大会は、どんどん自分から遠ざかっていく気がしました。自分の最高の射で弓を引くことができず、改善点は直らないままでした。今まで一生懸命練習をしてきた意味とは。結果に限らずとはいうものの、悔しさが体から抜けませんでした。大会後の練習に行こうとしても足が前に進もうとしませんでした。

そんな中、私を前向きな気持ちにしてくれたのは、仲間の励ましです。新人の頃から今までを共に過ごし、県大会で私と同じ気持ちを胸にした仲間は、一緒に話すだけで心が和らぎます。私の心の隅に少しずつ「頑張ろう」という気持ちが芽生えてきました。仲間の励ましがあったからこそ、今、私が的の前に立って弓を引いているのだと思います。

私の心情曲線を激しく変化させる弓道は、私にとって大切な存在です。弓道は悔しい思いや悲しい思いをすることもあるけれど、それ以上に楽しいことやうれしいことが経験でき、弓道に助けられたことや鍛えられたことがたくさんあり、心身共に強くなった気がします。

私の目標は全国大会に出場することです。私を支えてくれた家族や仲間、そして先生方にも感謝を忘れず、努力で恩返しできるよう自分の力を全力で発揮したいです。今まで経験してきた悔しさをバネに、全国大会への切符を勝ち取りたいです。